

GT-R Magazine
presents

powered by **AUTO MESSE**

R's Meeting 2023

雨のち、快晴!

年に一度のGT-R祭り「R's Meeting」が2023年も開催。
当日の朝は、まさかの土砂降りの雨でどうなることかと思ったものの、
皆さんのおかげでイベント開催時は快晴に恵まりました!

文: 原田貴俊 (本誌) 写真: 真壁敦史 / 木村博道 / 増田貴広





日本全国から歴代Rが集結



今年も装着からゲート前にはGT-Rが並ぶ。雨天は走行しないというオーナーも多いはず。非常に心苦しい思いで運営スタッフは会場へ。するとどうだろうか。空が明るくなるにつれて雨雲も薄くなり、イベントスタート時にはすっかり快晴へ。早朝の土砂降りなどなかったかのような天気には驚いてしまった。読者の皆様の思いのおかげです。ありがとうございます！



雑誌の誌面や動画配信サイトなどでしか見られないような、最新のGT-Rデモカーを間近に見ることができる貴重な機会。どのデモカーも多くの人々がじっくりと眺めていたのが印象的でした。そのほか人気コンテンツの愛車撮影会や、本コースではCLUB RH9の走行会が開催され、迫力のエキゾーストサウンドが響き渡るなど、GT-Rを満喫できる1日に

開催中は快晴に恵まれイベント日和

**GT-Rオーナーの熱い想いに
触れられる大事なイベント**

まず、最初にお詫びを申し上げなければなりません。楽しみにされていた愛車撮影会の当落発表で、システムの不備により多くの方を悲しませてしまったこと、心よりお詫び申し上げます。このようなことが無いよう、十分に検証と対策を施し、2024年はみなさんが笑顔になれるイベントを目指して準備してまいります。

私が8月1日よりGT-Rマガジンを再び担当することになり、一番不安に思っていたのが、R'sミレーティングである。これほどまでに大きなイベントの主催という重責を担うことがどれほど大変か。野田前編集長の苦労が、ようやく実感させられたのだ。

これまで愛車撮影会のみを担当していただけに、イベント全体など把握もしたことがなく、本当に右も左もわからない状態。こんなことで本当にR'sミレーティングを開催できるのだろうか？ 不安で眠れない日々が続いた……。

そして迎えた本番当日。弊社スタッフは準備のため、ゲートオープンよりも早く会場に入らねばならない。早朝と呼ぶべきか、深夜と呼ぶべきか。時計の針は4時を少し過ぎたくらいだろうか。窓の外からは、嫌な音が聞こえてくる。雨が降っているではないか。それもかなり強い。これでは大事なRをガレージから出したくない、というユーザーも多いことだろう。

「荒天中止……か？」
そう誰もが思ってしまうほどの大荒れの天気。不安を抱えたまま、ホテルから会場の富士スピードウェイへ向かうことにした。

しかし、そんな不安は一瞬にして吹き飛ばすことになったのだ。



豪華トークショーでは貴重な秘話も



日産自動車 チーフビークルエンジニア
川口隆志氏



日産自動車 R35ブランドアンバサダー
田村宏志氏



R33 / R34商品主管
渡邊衛三氏



R33商品主管
田口 浩氏



レーシングドライバー／モータージャーナリスト
木下隆之氏



レーシングドライバー／モータージャーナリスト
桂 伸一氏



レーシングドライバー
土屋圭市氏



日産自動車 車両実験部
加藤博義氏



今年のトークショーは計3回。桂 伸一氏と木下隆之氏には無理言って3回ともご登壇いただいた。皆さんの貴重なお言葉を聞こうと、たくさんの方々が足を止めていただいたことに感謝。MCは昨年に引き続き、レーサーであり野菜ソムリエのおおねえこと萩原なお子氏。なんと山田英二氏も乱入!?





2024年も富士の裾野でお会いしましょう!

たくさんの方の笑顔を見て決心!
来年もまた会えますように……

大雨のなか、ゲートの前にはたくさん
のGT-Rが列を作り、開場するのを待
っていてくれたのである。

そしてゲートオープンとなり、たくさ
んのGT-Rがイベント広場へとだれ
だれでくる。あつという間に、さまざ
まなGT-Rが会場を埋め尽くしてくれた。
今までも同じ光景を見ているはずなのに
今までは異なっていた。GT-Rマ
ガジンは、本当に多くの方に支えられて
いるんだなあということあらためて実
感した瞬間だった。

毎年開催しているコンテンツのひとつ
であるトークショーは計3回。これまで
にはなかったであろう試みとして、桂
伸一氏と木下隆之氏には、1回のゲスト
出演としてだけでなく、個人的にはサ
ブMCの感覚で、すべての回にご登壇い
ただいた。私の無理難題に、応えてい
ただいて感謝しております。でも、トーク
が面白いおふたりですから、各回のゲス
トの皆さんとのクロストークは面白かつ
たのではないかな? と思っと思っていますが、
いかがでしたでしょうか?

2023年の心残りは、R'sミートイ
ングとしての走行コンテンツをご用意で
きなかったこと。とくにパレードランに
ついては多くのご意見を頂戴し、楽しみに
していただいていた方には申し訳ない
思いでいっぱいである。やはり、サーキ
ットがふるさと言ってもいいGT-R
なのだから、全開でなくともせつかくの
富士スピードウェイを走って堪能してい
ただきたい。パレードランのみならず、
フリー走行や見ていてドキドキするよう
なコンテンツなどを用意したいとすでに
妄想は膨らむばかり。2024年はR's
ミートイングリしい走行コンテンツにも
ご期待いただきたい。

今年のR'sミートイングリ、テーマを
「進化」とした。当日のオープニングで
もお話したとおり、173号は表紙に終
わりなき進化と深化と入れたことに掛け
て、これからのR'sミートイングリにもピ
ツタリだな、と思いついた。このテーマに決定。
イベントはコンテンツ的には大きく変わ
ることができなかったが、イベントを終
えて、私自身、新しいことにも挑戦して
みよう、と心に決めていた。すべては、
来場していただける皆様が笑顔で帰って
いただけるように……。

自分のなかでは1カ月に感じるほど、
あつという間に時間が過ぎていった約3
カ月だった。本当に準備できているのだ
ろうか? イベントがスタートするまで
はそんな不安もあったのだが、集合写真
撮影のため、たくさんの方に集っていた
だき……。涙がこぼれそうになるのをグ
ッと堪え、エンディングまで乗り切るこ
とができた。多くの方から、また来年!
なんてお言葉もいただき、本当に感謝し
かない思いである。出展社の皆様の搬出
も終わり、ほんの少し前まで賑わってい
たイベント広場がガラシとした夕方。そ
の全景を見渡しなが、本当に終わって
んだなあと思ひ、ドツと疲労感に襲わ
れた。無事終わったことに感謝しつつ、
スタッフカーのGT-Rとともに都内へ
向けて走り出したのであった。

まだ終わつたばかりではあるが、すぐ
に前を向き歩き出さなければならぬ。
このR'sミートイングリをもっと素晴らし
いイベントにするため、もう準備はスタ
ートしているのだ。2024年はGT-R
マガジンが創刊してから30年を迎える
というメモリアルイヤー。特別な202
4年も、ぜひ富士スピードウェイでお会
いしましょう。ありがとうございま
した! これからも新生GT-Rマガジン
とR'sミートイングリを、どうぞよろしく
お願いいたします!

